

## 稲作



### 高品質米の生産に向けた土づくり

一般に水稲は、肥料ではなく地力で穫るものといわれます。総合的な土づくり対策は、低温年や日照不足の年に限らず、高温年においても品質低下の軽減が期待出来ます。土壌の総合的な改善には、排水対策、稲わらのすき込み、土壌診断に基づく土づくりの優先順位は土壌タイプによって異なるので、土壌条件に合わせた土づくりを行う必要があります。

### 〈水稲の作況（9月15日時点）〉

東北農政局秋田地域センターが公表した、コメの作柄概況によると、秋田県内の作況指数は前年同期比5ポイント増の104「やや良」でした。9月15日現在における水稲の作柄は、出穂期以降、日照時間が平年を下回って経過し、登熟



が「やや不良」と見込まれるものの、田植期からおおむね天候に恵まれ全もみ数が多かったことから、10a当たり予想収量は596kgとなりました。ただし、8月の日照不足により草丈が長くなり倒伏した圃場では品質・収量の低下が懸念されます。

### 土改材肥料散布+秋耕起のすすめ

稲刈り終了後、土壌改良資材を散布し耕起を行えば翌年の土づくり肥料を省略できるほか、稲ワラの腐熟が進み、ワラの浮きや残草した多年生雑草が、新たに地下に繁殖体を作るのを防ぐため、翌年の雑草・病害虫の抑制に効果があります。



### 営農行事案内

肥料・農薬勉強会を  
23日・24日に開催!



肥料・農薬の適正使用を説明するため、10月23日と24日の2日間にわたり、肥料・農薬勉強会を開催します。低温・高温障害への対応や、除草剤の散布時期などについて、JAやメーカー担当者が説明・相談を行います。なお、27年度用の肥料・農薬予約注文は、11月17日(月)となっておりますので、ご注意ください。

